

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3770200362
法人名	社会福祉法人博安会
事業所名	グループホームなごみ
所在地	香川県丸亀市垂水町1353番地 (電話)0877-28-2080

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価決定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】(21年10月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年	5月	9日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	20人	常勤	11人, 非常勤 9人, 常勤換算 14.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階部分
------	-------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	17,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()100,000円 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,920円			

(4)利用者の概要(10月16日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	今田医院、藤本歯科医院、三船病院、麻田総合病院
---------	-------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の方々に支えられながら、年間を通し、行事が充実しているので楽しみが多い。複合施設のメリットとして、他部署での行事やイベント等にも気軽に参加でき、それによりグループホーム単独ではなく、多くの人との交流がある。また、参加するだけでなく大きな行事は共同で行ったり、グループホーム単独のイベントにも参加してもらったりしている。その際にも地域の方々やボランティアさんが常に協力してもらえ体制作りをしており、また、常に同じメンバーなので入居者とも馴染みの関係が保たれ、混乱を招くことなく参加できている。
 ・ケアの質の向上を日々全職員で考えられる体制作りにも努めている。マンネリ化を防ぐため、常に職員間のコミュニケーションは充分図れるようにしている。会議の時間を少ない時間でも多数設け、常に質の向上について検討している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は、住み慣れた地域で暮らし続けることを望んでいる高齢者の思いを支える為に事業を開始し、併設している医療機関及び福祉施設との協働・連携を図った運営を行っている。また、設立の願いである、「地域に密着した生涯にわたるお付き合い」「細やかな気配りと、やさしさの行き届いた介護」を運営理念に設けており、管理者及び職員一同に共有されている。職員は利用者一人ひとりの個性を尊重し、本人の生活リズムやペースを大切に支援を心がけている。その結果、利用者の表情が自然であり、安心して過ごされている。また、高齢者ケアに対して管理者と職員が一丸となり、積極的に取り組む姿勢がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「細やかな気配りと、やさしさの行き届いた介護をモットーとします」「地域に密着した生涯にわたるお付き合いを」を理念とし、見える場所に掲示し、毎朝朝礼時に復唱している。	「入居者主体の生活」を基本とした、事業所独自の理念をつくりあげている。また、地域密着型サービスの意義を理解し、入居者と一緒に過ごす事を大事に地域の方々と触れ合うなど運営理念の実現を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には声をかけてもらったり、こちらからも、挨拶を交わしている。また、地域での行事(お祭りや運動会、夏祭り等)に積極的に参加し接することで、理解してもらえるよう取り組んでいる。また、地域のボランティアさんの協力体制もある。	入居者の方が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう、近隣の方々はじめ、関係団体が行うふれあい祭り等の行事への参加を行っている。また、ボランティアを通して地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	依頼により、説明会や相談会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換をし、そこで出た意見に関しては一度職員全員に周知し、今後どのように進めていくか検討する。それを、次回の運営推進までに実施し、取り組みについての報告を行う。	2か月に1回、市の主管課長、自治会長、地域住民代表、入居者代表、入居者家族代表の参加により開催している。事業所の現状や取り組みについての報告や話し合いを行い、事業所のサービスの質向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内状や、その他行事の案内は入居者と共に持参し、行き来している。また、グループホーム連絡会にも毎回参加している。	市の担当者が出席しているグループホーム連絡会に毎回参加し、関わりを持つ取り組みをしている。また、毎月、市の担当者へ事業所の状況や取り組みを伝えたり話し合う為の活動を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解し、玄関の施錠について状況に応じ、対応している。「鍵をかけないと用心が悪い」という入居者の方への対応や、安全の確保が優先される時であっても自由に出ることの出来る環境作りに努めている。	玄関や居室等の鍵は昼間はしていない状態であり、安全に過ごせる工夫をしている。また、外部研修での復命の機会を設け、禁止事項や認知症の方への接し方、拘束のないケアを職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より朝礼・会議において虐待防止については周知・徹底しており、各自が念頭に置き業務につき、常の観察により防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学ぶ機会がある。しかし、現在はこの制度を利用されている人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	2名以上の担当職員により、必ずご家族が納得されるまで話し合いをする。また、その後質問があった場合にもお声がけ頂ければいつでもお答えできることもその時に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、日頃よりコミュニケーションを通じて意見を聞いている。常に苦情についても何でも遠慮なくお声がけ下さいとこちらから声かけし、相手が言いやすいよう環境作りに努めている。	運営推進会議においてご家族からのご意見・ご要望を聞く機会を設けている。また、意見箱の設置をすると共に、日頃からご家族のご意見やご要望が言いやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な意見交換の機会があり、意見を反映し職員の側にたった対応である。また、毎月会議を行い職員間での意見交換、常日頃から朝礼時などコミュニケーションを図り、その意見を反映させている。	定期的に職員の意見や要望について、管理者を交えた話し合いの機会を設けている。また、馴染みの関係を重視した運営を行い、必要に応じて話し合い、その意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、主任リーダーと定期的な意見交換・協議を行い当面の問題点や職務を遂行するなかでの対応策等々を洗い出し、加えて職員のモチベーション向上のための条件整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成には力を入れており、職員が可能な限り施設外の研修に参加できるように努め、また施設内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には積極的に参加し、その参加者とも交流を図っている。また、今年も相互評価に参加する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、担当者がご本人を訪問して納得できるように話あう機会を作り、出来る限りご本人と信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまで、担当者が家族を訪問したり、事業所で会うようにし、十分納得できるように話しあう機会を作り、出来る限りご家族と信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、同法人の支援センター職員等と共に相談を受けるようにしており、その都度必要な最善のサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「常に共に行う」を念頭に置き、一人ひとりにあった支援に努めている。自然にその方にあった役割ができ、入居者同士での配慮や助け合いの精神も芽生え、共同生活の中での支えあいがみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事もホウレンソウ出来る関係を築くように努めている。面会時などには報告・相談し、支援方法を家族と共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人・知人、馴染みの方がよく訪れてくれるように配慮したり、馴染みの美容院に行ったり、行事の案内などを自宅に届けに行ったり、市役所・郵便局などに行ったりと支援に力を入れている。	近所の方や知人等の訪問時には、ゆっくりした時間が過ごせるよう接茶の対応を行うなどの配慮をしている。また、外出や買い物については、市役所や郵便局などの馴染みの人との関係維持を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を見極め、みんなで調和出来るよう職員が配慮した声掛けをし、入居者同士の橋渡しをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても入院先等を訪問したり、ご家族に会った際には様子を聞く等、何らかのつながりが持てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションの中から本人の思いを探ったり、何気ない会話の中から等にもヒントがあるのでその中で検討している。	入居者一人ひとりの入居前の生活の過ごし方を把握すると共に、日々の生活での会話や表情、しぐさなどから、本人の思いや意向を把握するよう努めている。また、職員間で入居者の希望に添う為の話し合いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所からサービス提供書をもったり、アセスメントや入居時に記入して頂くインタビュー等にて情報収集する。また、本人や家族から常に話を聞き、生活環境の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で一人ひとりの生活状況を共有し、その中で共に行い、常に本人の持っている力を決めつけず、その都度把握に努め、持っている力が充分発揮できる場面作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を中心とし、本人を支えるチームの一員であると認識し計画を立てる際には参加し共に意見を交換・共有し作成している。	入居者やご家族の意向を聞き、職員間で話し合いを行い、入居者の考えや思いが反映された、個別の介護計画が作成されている。定期的な見直しや入居者の状態の変化に伴った見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰でもが、ケアプランを見ることができるよう目の届く所にはさみ、それに添った記録とし記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人所有の車の活用や特別養護老人ホーム・デイサービスで行われる様々な行事などへの参加など活用し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護支援課や、警察署・消防署など常に連絡の取れる体制にあり、また、行事やボランティア交流、保育所・小学校など、近隣の方との交流を通し、安心して暮らせる体制作りにも努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々にかかりつけ医があり、家族の支援も受けながら受診している。	事業所の協力医療機関(内科、歯科、精神科)との連携により、定期的な受診を実施している。また、協力医療機関以外にも、かかりつけ医の医療を受けられるように支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護職員を配置しており、日頃より相談できると共に、近隣の医療機関との連携により相談はいつでも可能な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、介護添書を提供し、定期的に訪問しご本人の様子を伺うと共に、病院関係者とも情報交換し連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご家族やかかりつけ医を含めて各担当者と共に今後の方針を話しあっており、状態に応じた対応がスムーズに行えるよう支援している。	入居時にご家族の方に対して、生活の方針を説明すると共に、希望を聞いている。また、機会をみて入居者・ご家族の意向に沿えるための話し合いを行い、職員会議等で方針を共有している。併設している医療機関の支援や福祉施設との連携体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の医務を中心に定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。	年2回、入居者と避難訓練をしている。内、消防署の協力により、年1回の避難訓練を実施している。一方、地元自治会との協働訓練と災害に備えた水や非常食等の準備についての課題が残っている。	災害時に併設している福祉施設の援助も得られる恵まれた環境であるが、今後、事業所として、地元自治会との協働災害訓練の実施と水や非常食等の準備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いは日頃より気をつけており、一人ひとりの個々に合わせた言葉掛けに配慮しながら対応している。	職員から入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損なう様な言葉かけや対応はみられない。入居者の個人情報の取り扱いについての理解と守秘義務の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつか選択肢を出し、なるべく多くの意見を聞きだし、できるだけ入居者が自分で答えを出せるよう導き、自己決定の大切さを認識した上で支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペース、希望にあわせた支援ができるようにその日の勤務者が相談して支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれに任せている。また、衣装ケースから一緒に選んだり、楽しく行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りの際に具を選んでもらったり、食べたいメニューの希望を聞いたり、個々にあった能力に合わせ、準備・片付けを行っている。	献立の工夫として、入居者と一緒に畑の収穫物を使い季節感を味わっている。職員と一緒に食事を取り、楽しんで食事をしている。入居者個々の力に応じ食事の準備や後片付けのお手伝いをして頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックをし、必要量確保できない方に関しては個々にその都度、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨き、うがい薬にてうがいなどで口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツの方はいるが、オムツについてはなるべく使用しない取り組みで実施している。個々の排泄パターンは把握し、今のところ全員トイレでの排泄が行われている。	オムツを使用しない取り組みとして、排泄チェック表を活用して、入居者個々の排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の量を多くしたり、食物繊維を多くとったり、適度な運動や、センナ茶の飲用にて排便を促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の状態や本人の希望を聞き、曜日・時間帯・タイミングなど柔軟に対応している。	希望する入居者には、毎日入浴をして頂いており、入居者一人ひとりの心身の状態に応じた柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも生活リズムを把握して休息できるよう声掛けしたり、夜間帯でも安心して眠ることができるよう、十分なコミュニケーションを図り、対応している。また、夜間帯に睡眠が取れるよう、日中をなるべく負担無く活動的にしたりと配慮はしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬が分かるよう服薬表をケース記録につけ、内容を理解している。また、薬箱にも薬の名前・量を記入している。また、状態に変化がある場合は担当医と内服状況をすぐに相談できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事時などの挨拶等、生活歴や力を活かせるよう、個々にあった生活の中での役割分担が自然に出来ている。役割が達成されたら、共に声を掛け合い、負担無く充実感を持ち、実施できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に2回の買い物時や、郵便局・市役所などへの外出、一人ひとりに行きたい場所など聞いて、家族と相談しながら希望がかなうようできる限り支援している。	天候や季節に応じて、散歩や入居者の買い物等に行くなど、入居者の希望に沿った支援をしている。また、入居者一人ひとりの希望や精神状態に応じて出かけられる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や、力に応じ、金額の差もあるが、少額でも安心する方は本人管理とし、また、買い物時に支払いをし、使える環境にある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用の訴えがあれば、希望の所への対応をしている。事前に家族にも希望の時間帯などの確認もしている。また、年賀状など葉書を書く機会もあり、やり取りができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁画にも季節感を出し、過剰にならぬよう自然に季節感が感じられるよう、家庭的にしている。	共有空間には畳コーナーやソファ等、入居者それぞれの居場所の確保ができる配慮をしている。また、自然の光や季節感を取り入れた花及び装飾もあり、居心地良く生活できる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、畳の所、談話、廊下のソファなど個々にそのときに応じ、思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物をできる限り持ち込んでもらえるよう声掛けしている。以前の生活環境を変えないように家族にも協力してもらっている。	入居者により、居室のテーブル、椅子、写真、装飾品などの備品を準備している。また、使い慣れた物を持ち込み、その人らしい生活ができる様に配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりつきのバリアフリーの福祉住宅で安全に設計されており、トイレや居室などに目印をつけ場所が分かるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「細やかな気配りと、やさしさの行き届いた介護をモットーとします」「地域に密着した生涯にわたるお付き合いを」を理念とし、見える場所に掲示し、毎朝朝礼時に復唱している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には声をかけてもらったり、こちらからも、挨拶を交わしている。また、地域での行事(お祭りや運動会、夏祭り等)に積極的に参加し接することで、理解してもらえるよう取り組んでいる。また、地域のボランティアさんの協力体制もある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	依頼により、説明会や相談会を実施している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換をし、そこで出た意見に関しては一度職員全員に周知し、今後どのように進めていくか検討する。それを、次回の運営推進までに実施し、取り組みについての報告を行う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内状や、その他行事の案内は入居者と共に持参し、行き来している。また、グループホーム連絡会にも毎回参加している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解し、玄関の施錠について状況に応じ、対応している。「鍵をかけないと用心が悪い」という入居者の方への対応や、安全の確保が優先される時であっても自由に出ることの出来る環境作りに務めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より朝礼・会議において虐待防止については周知・徹底しており、各自が念頭に置き業務につき、常の観察により防止に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にても学ぶ機会がある。しかし、現在はこの制度を利用されている人はいない。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	2名以上の担当職員により、必ずご家族が納得されるまで話し合いをする。また、その後質問があった場合にもお声がけ頂ければいつでもお答えできることもその時に伝えている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、日頃よりコミュニケーションを通じて意見を聞いている。常に苦情についても何でも遠慮なくお声がけ下さいとこちらから声かけし、相手が言いやすいよう環境作りに努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な意見交換の機会があり、意見を反映し職員の側にたった対応である。また、毎月会議を行い職員間での意見交換、常日頃から朝礼時などコミュニケーションを図り、その意見を反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、主任リーダーと定期的な意見交換・協議を行い当面の問題点や職務を遂行するなかでの対応策等々を洗い出し、加えて職員のモチベーション向上のための条件整備を図っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成には力を入れており、職員が可能な限り施設外の研修に参加できるように努め、また施設内研修も行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には積極的に参加し、その参加者とも交流を図っている。また、今年も相互評価に参加する。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、担当者がご本人を訪問して納得できるように話あう機会を作り、出来る限りご本人と信頼関係を築けるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまで、担当者が家族を訪問したり、事業所で会うようにし、十分納得できるように話あう機会を作り、出来る限りご家族と信頼関係を築けるように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、同法人の支援センター職員等と共に相談を受けるようにしており、その都度必要な最善のサービスを提供するように努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「常に共に行う」を念頭に置き、一人ひとりにあつた支援に努めている。自然にその方にあつた役割ができ、入居者同士での配慮や助け合いの精神も芽生え、共同生活の中での支えあいがみられる。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事もハウレンソウ出来る関係を築くように努めている。面会時などには報告・相談し、支援方法を家族と共に考えている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人・知人、馴染みの方がよく訪れてくれるように配慮したり、馴染みの美容院に行ったり、行事の案内などを自宅に届けに行ったり、市役所・郵便局などに行ったりと支援に力を入れている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を見極め、みんなで調和出来るよう職員が配慮した声掛けをし、入居者同士の橋渡しをする。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても入院先等を訪問したり、ご家族に会った際には様子を聞く等、何らかのつながりが持てるよう努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションの中から本人の思いを探ったり、何気ない会話の中から等にもヒントがあるのでその中で検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所からサービス提供書をもったり、アセスメントや入居時に記入して頂くインタビュー等にて情報収集する。また、本人や家族から常に話を聞き、生活環境の把握に努める。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で一人一人の生活状況を共有し、その中で共に行い、常に本人の持っている力を決めつけず、その都度把握に努め、持っている力が充分発揮できる場面作りに努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を中心とし、本人を支えるチームの一員であると認識し計画を立てる際には参加し共に意見を交換・共有し作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰でもが、ケアプランを見ることができるよう目の届く所にはさみ、それに添った記録とし記入している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人所有の車の活用や特別養護老人ホーム・デイサービスで行われる様々な行事などへの参加など活用し支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護支援課や、警察署・消防署などに連絡の取れる体制にあり、また、行事やボランティア交流、保育所・小学校など、近隣の方との交流を通し、安心して暮らせる体制づくりに努めている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々にかかりつけ医がおり、家族の支援も受けながら受診している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護職員を配置しており、日頃より相談できると共に、近隣の医療機関との連携により相談はいつでも可能な体制を整えている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、介護添書を提供し、定期的に訪問しご本人の様子を伺うと共に、病院関係者とも情報交換し連絡を密にとっている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご家族やかかりつけ医を含めて各担当者と共に今後の方針を話しあっており、状態に応じた対応がスムーズに行えるよう支援している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の医務を中心に定期的実施している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには日頃より気をつけており、一人ひとりの個々に合わせた言葉掛けに配慮しながら対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつか選択肢を出し、なるべく多くの意見を聞きだし、できるだけ入居者が自分で答えを出せるよう導き、自己決定の大切さを認識した上で支援に努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペース、希望にあわせた支援ができるようにその日の勤務者が相談して支援できるよう努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれに任せている。また、衣装ケースから一緒に選んだり、楽しく行っている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りの際に具を選んでもらったり、食べたいメニューの希望を聞いたり、個々にあった能力に合わせ、準備・片付けを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックをし、必要量確保できない方に関しては個々にその都度、対応している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨き、うがい薬にてうがいなどで口腔内の清潔に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツの方はいるが、オムツについてはなるべく使用しない取り組みで実施している。個々の排泄パターンは把握し、今のところ全員トイレでの排泄が行われている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の量を多くしたり、食物繊維を多くとったり、適度な運動や、センナ茶の飲用にて排便を促したりしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の状態や本人の希望を聞き、曜日・時間帯・タイミングなど柔軟に対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも生活リズムを把握して休息できるよう声掛けしたり、夜間帯でも安心して眠ることができるよう、十分なコミュニケーションを図り、対応している。また、夜間帯に睡眠が取れるよう、日中をなるべく負担無く活動的にしたりと配慮はしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬が分かるよう服薬表をケース記録につけ、内容を理解している。また、薬箱にも薬の名前・量を記入し手いる。また、状態に変化がある場合は担当医と内服状況をすぐに相談できる体制をとっている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かせるよう、個々にあった生活の中での役割分担が自然に出来ている。役割が達成されたら、共に声を掛け合い、負担無く充実感を持ち、実施できている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に2回の買い物時や、郵便局・市役所などへの外出、一人ひとりに行きたい場所など聞いて、家族と相談しながら希望がかなうようできる限り支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や、力に応じ、金額の差もあるが、少額でも安心する方は本人管理とし、また、買い物時に支払いをし、使える環境にある。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯をお持ちの方もいる。本人自ら電話をされる方に関しては、家族とも事前にお話し、本人の思いを理解して頂いている。また、年賀状など葉書を書く機会もあり、やり取りができる。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁画にも季節感を出し、過剰にならぬよう自然に季節感が感じられるよう、家庭的にしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話スペース(ソファー)など個々にそのときに応じ、思い思いに過ごせている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物をできる限り持ち込んでもらえるよう声掛けしている。以前の生活環境を変えないように家族にも協力してもらっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりつきのバリアフリーの福祉住宅で安全に設計されており、トイレや居室のなどに目印をつけ場所が分かるようにしている。